

公共健康医学専攻(SPH)シラバス

2013年度

東京大学大学院医学系研究科

目 次

事 項		ページ
1. 授業科目の履修について		1
	1.修了要件	1
	2.履修手続き	1
2. 授業科目一覧		2～3
3. 時間割		4
4. 履修モデル		5～8
	「公衆衛生行政・管理」	5
	「保健アナリスト・コーディネーター」	6
	「臨床疫学・アウトカム評価」	7
	「医療情報・臨床工学」	8
5. シラバス		10～45
6. 公共健康医学専攻成績評価規則		46
7. 公共政策大学院との合併科目について		47～50

日程	
S P Hガイダンス	4月 3日 (水)
入進学者ガイダンス	4月 8日 (月)
大学院入学式	4月12日 (金)
夏学期	4月 5日 (金) ～ 7月31日 (水)
	前 半： 4月 5日 (金) ～ 5月31日 (金)
	後 半： 6月 3日 (月) ～ 8月2日 (金)
定期健康診断	新入生： 5月21日 (火) ～ 5月29日 (水)
	在学生： 6月6日 (木) ～ 6月13日 (木)
S P H研究室配属 (予定)	オリエンテーション：6月中旬～下旬
	希望調書提出 : 7月上旬～中旬
夏季休業期間	8月 5日 (月) ～ 9月30日 (月)
冬学期	10月 1日 (火) ～ 2月 7日 (金)
	前 半：10月 1日 (火) ～11月22日 (金)
	後 半：11月25日 (月) ～12月20日 (金) 1月 6日 (月) ～ 2月 7日 (金)
S P H課題研究論文	題目届提出期限：11月29日 (金)
	論文提出期限：12月20日 (金)
	発 表 会： 1月10日 (金)
学位記授与式	3月24日 (月) (予定)

時 限	1 時 限	8 : 4 0 ～ 1 0 : 1 0
	2 時 限	1 0 : 3 0 ～ 1 2 : 0 0
	3 時 限	1 3 : 0 0 ～ 1 4 : 3 0
	4 時 限	1 4 : 5 0 ～ 1 6 : 2 0
	5 時 限	1 6 : 4 0 ～ 1 8 : 1 0
	6 時 限	1 8 : 3 0 ～ 2 0 : 0 0

1. 授業科目の履修について

1. 修了要件

コ ー ス		1 年コース	2 年コース
標準修業年限		1 年	2 年
必要単位数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上	
修了要件	必修	①A：2科目＋B：4科目の計6科目11単位を履修 A：必須2科目	
		科目番号	科目名
		41318113	医学データの統計解析
		41318322	環境健康医学
		B：下記の4つに分類されている必修科目を、各分類から1科目ずつ計4科目(各分類1科目以上、計4科目以上履修も可)	
		分類	科目番号
		1	41318111 疫学研究と実践
		1	41318115 医学研究のデザイン
		2	41318211 精神保健学Ⅰ
		2	41318213 健康教育学
		3	41318218 医療倫理学Ⅰ
		3	41318220 社会と健康Ⅰ
		3	41318316 法医学・医事法学
		4	41318311 健康医療政策学
		4	41318312 医療情報システム学
		② 課題研究（6単位） （2年次に履修申請すること）	
		①選択科目（1年コースの課題研究は選択科目扱い）	
		②他専攻・他研究科（特に公共政策大学院）科目（8単位まで）	

注意事項 1学期間に25単位を超えて履修科目を登録することはできません。

2. 履修手続き

（1）履修登録手続き

4月19日（金）までに学務システム（通称：UT-mate）上で履修登録手続きを行ってください。

<https://ut-gakumu.adm.u-tokyo.ac.jp/websys/campus>

（2）冬学期科目の履修追加・修正登録手続き（10月1日（火）～21日（月））

希望者は（1）同様、学務システム（通称：UT-mate）上で手続きを行ってください。

2. 授業科目一覧

※講義室・講義日程が変更となる場合があるので掲示等を必ず確認すること。

頁	科目番号	授 業 科 目	単 位	学期	曜日	時限等	担当教員		開始日
P. 10	41318111	疫学研究と実践	2	夏	金	2	佐々木 敏	教授	4/5
P. 11	41318112	予防保健の実践と評価	2	夏休		2～4	佐々木 敏	教授	8/6
P.12	41318113	医学データの統計解析	2	夏前	木	3・4	大橋 靖雄 松山 裕	教授 准教授	4/11
P.13	41318114	医学統計学演習	2	夏	木後	3・4	松山 裕 柴田 大朗	准教授 非常勤講師	6/6
P.14	41318115	医学研究のデザイン	2	冬前	火	3・4	大橋 靖雄 久保田 潔 松岡 浄	教授 兼担 非常勤講師	10/1
P.15	41318116	臨床疫学	2	夏後	水	1・2	康永 秀生 吉村 典子 野口 靖子 堀口 裕正	教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	6/5
P.16	41318117	臨床疫学・経済学演習	2	冬	木	3・4	康永 秀生	教授	10/3
P.17	41318118	保健医療経済学	2	夏前	水	1・2	康永 秀生	教授	4/10
							泉田 信行	非常勤講師	
							後藤 励	非常勤講師	
P.18	41318120	医療コミュニケーション学	2	夏前	火	3・4	木内 貴弘 石川 ひろの	教授 准教授	4/9
P.20	41318121	医療コミュニケーション学実習	1	夏後	水	3～5	木内 貴弘 石川 ひろの	教授 准教授	6/5
P.21	41318124	医療技術評価学演習	1	夏休	集中		康永 秀生 福田 敬 五十嵐 中	教授 非常勤講師 非常勤講師	9/9
P.22	41318211	精神保健学Ⅰ	2	夏	火	5	川上 憲人 島津 明人	教授 准教授 非常勤講師	4/9
P.23	41318212	精神保健学Ⅱ	2	冬	火	5	島津 明人 川上 憲人	准教授 教授 非常勤講師	10/1
P.24	41318213	健康教育学	2	冬後	金	1・2	橋本 英樹 岩永 俊博 岡田 加奈子 戸津崎 貴文	教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	11/29
P.25	41318214	健康社会学	2	冬前	金	1・2	橋本 英樹 杉澤 秀博 朝倉 隆司 中山 和弘	教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	10/4
P.26	41318217	健康増進科学	2	夏後	火	3・4	李 廷秀	准教授	6/4
P.27	41318218	医療倫理学Ⅰ	2	夏前	金	5・6	赤林 朗 瀧本 禎之	教授 准教授	4/5
P.28	41318219	医療倫理学Ⅱ	2	夏後	金	5・6	赤林 朗 瀧本 禎之	教授 准教授	6/7
P.29	41318220	社会と健康Ⅰ	2	冬前	木	1・2	近藤 尚己 橋本 英樹 児玉 聡 堤 明純 藤原 武男 本庄 かおり	准教授 教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	10/3
P. 30	41318221	社会と健康Ⅱ	2	冬後	木	1・2	近藤 尚己	准教授	11/28
P. 31	41318311	健康医療政策学	2	冬	月	5	小林 廉毅 東 尚弘 馬場園 明	教授 准教授 非常勤講師	10/7
P. 32	41318312	医療情報システム学	2	夏前	金	3・4	大江 和彦	教授	4/19
P. 33	41318316	法医学・医事法学	2	夏	月	3	吉田 謙一	教授	4/15

P. 34	41318317	法医学・医事法学演習	2	冬	月	3・4	吉田 謙一	教授	10/7
P. 35	41318318	医療安全管理学	1	夏前	水	3・4	児玉 安司	特任教授	4/17
P. 36	41318319	医療安全管理学実習*	0.5	夏休	集中	1～6	児玉 安司	特任教授	9/24
P. 37	41318320	健康危機管理学	1	夏後	木	1・2	小林 廉毅 富尾 淳 岡部 信彦 中島 一敏 田中 良明	教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	5/30
P. 38	41318321	保健行政・健康危機管理学実習	2	夏休	集中		小林 廉毅 田中 良明	教授 非常勤講師	
P. 39	41318322	環境健康医学	1	冬前	月	2	遠山 千春	教授	10/7
P. 40	41318314	公共健康情報学	2	夏後	火	1・2	小山 博史 中山 健夫 若尾 文彦	教授 非常勤講師 非常勤講師	6/4
P. 41	41318315	公共健康情報学実習	1	冬前	金	3・4	小山 博史	教授	10/4
P. 42	41318411	インターンシップ	2				大橋 靖雄	教授	
P. 44	41318412	公共健康医学特論	2	夏	月	4	各教員		4/15
P. 45	41318511	課題研究	6	通年			各指導教員		

* 講義室は、原則、医学部教育研究棟13階公共健康医学専攻(SPH)講義室
 * 「医療情報システム学実習」「医療経営学演習」は休講とする。

3. 時間割(平成25年度)

			夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)							
曜日	時限		前半8週		後半8週		前半8週		後半8週			
			4/5～5/24		6/3～7/26		10/1～11/22		11/25～12/20, 1/6～1/31			
			予備: 5/27～5/31		予備: 7/29～8/2				予備: 2/3～7			
月	1	8:40 10:10									1	月
	2	10:30 12:00			41318322-環境健康医学					2		
	3	13:00 14:30	41318316-法医学・医事法学*3				41318317-法医学・医事法学演習				3	
	4	14:50 16:20	41318412-公共健康医学特論								4	
	5	16:40 18:10			41318311-健康医療政策学*4				5			
	6	18:30 20:00							6			
火	1	8:40 10:10		41318323-公共健康情報学	41318313-医療情報システム学実習(休講)			1	火			
	2	10:30 12:00					2					
	3	13:00 14:30	41318120-医療コミュニケーション学	41318217-健康増進科学	41318115-医学研究のデザイン*1			3				
	4	14:50 16:20					4					
	5	16:40 18:10	41318211-精神保健学Ⅰ*2				41318212-精神保健学Ⅱ			5		
	6	18:30 20:00						6				
水	1	8:40 10:10	41318118-保健医療経済学	41318116-臨床疫学				1	水			
	2	10:30 12:00					2					
	3	13:00 14:30	41318318-医療安全管理学	41318121-医療コミュニケーション学実習(計8回)				3				
	4	14:50 16:20						4				
	5	16:40 18:10					5					
	6	18:30 20:00					6					
木	1	8:40 10:10		41318320-健康危機管理学	41318220-社会と健康Ⅰ*3	41318221-社会と健康Ⅱ		1	木			
	2	10:30 12:00					2					
	3	13:00 14:30	41318113-医学データの統計解析	41318114-医学統計学演習	41318117-臨床疫学・経済学演習			3				
	4	14:50 16:20					4					
	5	16:40 18:10					5					
	6	18:30 20:00					6					
金	1	8:40 10:10					41318214-健康社会学	41318213-健康教育学*2	1	金		
	2	10:30 12:00	41318111-疫学研究と実践*1				2					
	3	13:00 14:30	41318312-医療情報システム学*4(6/14まで開講)				41318324-公共健康情報学実習		3			
	4	14:50 16:20							4			
	5	16:40 18:10	41318218-医療倫理学Ⅰ*3				41318219-医療倫理学Ⅱ		5			
	6	18:30 20:00							6			
夏季休業期間	8月	第2週	41318112-予防保健の実践と評価(8/5～9)									
	9月	第2週	41318124-医療技術評価学演習(9/9～11)									
		第2～3週	41318321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)									
		第5週	41318319-医療安全管理学実習(9/24～30)									

4. 履修モデル

履修モデル「公衆衛生行政・管理」

			夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)				
曜日	時限	前半8週		後半8週		前半8週		後半8週	
		4/5～5/24		6/3～7/26		10/1～11/22		11/25～12/20, 1/6～1/31	
		予備: 5/27～5/31		予備: 7/29～8/2				予備: 2/3～7	
月	1	8:40 10:10						1	月
	2	10:30 12:00			41318322-環境健康医学		2		
	3	13:00 14:30	41318316-法医学・医事法学*3			41318317-法医学・医事法学演習		3	
	4	14:50 16:20	41318412-公共健康医学特論				4		
	5	16:40 18:10			41318311-健康医療政策学*4		5		
	6	18:30 20:00					6		
火	1	8:40 10:10		41318323-公共健康情報学	41318313-医療情報システム学実習(休講)		1	火	
	2	10:30 12:00				2			
	3	13:00 14:30	41318120-医療コミュニケーション学	41318217-健康増進科学	41318115-医学研究のデザイン*1		3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10	41318211-精神保健学Ⅰ*2			41318212-精神保健学Ⅱ	5		
	6	18:30 20:00				6			
水	1	8:40 10:10	41318118-保健医療経済学	41318116-臨床疫学			1	水	
	2	10:30 12:00					2		
	3	13:00 14:30	41318318-医療安全管理学	41318121-医療コミュニケーション学実習(計8回)			3		
	4	14:50 16:20				4			
	5	16:40 18:10				5			
	6	18:30 20:00				6			
木	1	8:40 10:10		41318320-健康危機管理学	41318220-社会と健康Ⅰ*3	41318221-社会と健康Ⅱ	1	木	
	2	10:30 12:00					2		
	3	13:00 14:30	41318113-医学データの統計解析	41318114-医学統計学演習	41318117-臨床疫学・経済学演習		3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10				5			
	6	18:30 20:00				6			
金	1	8:40 10:10			41318214-健康社会学	41318213-健康教育学*2	1	金	
	2	10:30 12:00	41318111-疫学研究と実践*1				2		
	3	13:00 14:30	41318312-医療情報システム学*4(6/14まで開講)		41318324-公共健康情報学実習		3		
	4	14:50 16:20				4			
	5	16:40 18:10	41318218-医療倫理学Ⅰ*3	41318219-医療倫理学Ⅱ		5			
	6	18:30 20:00				6			
夏季休業期間	8月	第2週	41318112-予防保健の実践と評価(8/5～9)						
	9月	第2週	41318124-医療技術評価学演習(9/9～11)						
		第2～3週	41318321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)						
		第5週	41318319-医療安全管理学実習(9/24～30)						

履修モデル「保健アナリスト・コーディネーター」

		夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)			
曜日	時限	前半8週		後半8週			
		4/5～5/24		6/3～7/26		10/1～11/22	
		予備: 5/27～5/31		予備: 7/29～8/2		11/25～12/20, 1/6～1/31	
月	1	8:40 10:10					1
	2	10:30 12:00			41318322-環境健康医学		2
	3	13:00 14:30	41318316-法医学・医事法学*3		41318317-法医学・医事法学演習		3
	4	14:50 16:20	41318412-公共健康医学特論				4
	5	16:40 18:10			41318311-健康医療政策学*4		5
	6	18:30 20:00					6
火	1	8:40 10:10		41318323-公共健康情報学	41318313-医療情報システム学実習(休講)		1
	2	10:30 12:00					2
	3	13:00 14:30	41318120-医療コミュニケーション学	41318217-健康増進科学	41318115-医学研究のデザイン*1		3
	4	14:50 16:20					4
	5	16:40 18:10	41318211-精神保健学Ⅰ*2		41318212-精神保健学Ⅱ		5
	6	18:30 20:00					6
水	1	8:40 10:10	41318118-保健医療経済学	41318116-臨床疫学			1
	2	10:30 12:00					2
	3	13:00 14:30	41318318-医療安全管理学	41318121-医療コミュニケーション学実習(計8回)			3
	4	14:50 16:20					4
	5	16:40 18:10					5
	6	18:30 20:00					6
木	1	8:40 10:10		41318320-健康危機管理学	41318220-社会と健康Ⅰ*3	41318221-社会と健康Ⅱ	1
	2	10:30 12:00					
	3	13:00 14:30	41318113-医学データの統計解析	41318114-医学統計学演習	41318117-臨床疫学・経済学演習		3
	4	14:50 16:20					4
	5	16:40 18:10					5
	6	18:30 20:00					6
金	1	8:40 10:10			41318214-健康社会学	41318213-健康教育学*2	1
	2	10:30 12:00	41318111-疫学研究と実践*1				2
	3	13:00 14:30	41318312-医療情報システム学*4(6/14まで開講)		41318324-公共健康情報学実習		3
	4	14:50 16:20					4
	5	16:40 18:10	41318218-医療倫理学Ⅰ*3	41318219-医療倫理学Ⅱ			5
	6	18:30 20:00					6
夏季休業期間	8月	第2週	41318112-予防保健の実践と評価(8/5～9)				
	9月	第2週	41318124-医療技術評価学演習(9/9～11)				
		第2～3週	41318321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)				
		第5週	41318319-医療安全管理学実習(9/24～30)				

履修モデル「臨床疫学・アウトカム評価」

			夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)				
曜日	時限	前半8週		後半8週		前半8週		後半8週	
		4/5～5/24		6/3～7/26		10/1～11/22		11/25～12/20, 1/6～1/31	
		予備: 5/27～5/31		予備: 7/29～8/2				予備: 2/3～7	
月	1	8:40 10:10						1	月
	2	10:30 12:00			41318322-環境健康医学			2	
	3	13:00 14:30	41318316-法医学・医事法学*3			41318317-法医学・医事法学演習		3	
	4	14:50 16:20	41318412-公共健康医学特論					4	
	5	16:40 18:10			41318311-健康医療政策学*4			5	
	6	18:30 20:00						6	
火	1	8:40 10:10		41318323-公共健康情報学	41318313-医療情報システム学実習(休講)		1	火	
	2	10:30 12:00					2		
	3	13:00 14:30	41318120-医療コミュニケーション学	41318217-健康増進科学	41318115-医学研究のデザイン*1		3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10	41318211-精神保健学Ⅰ*2			41318212-精神保健学Ⅱ			5
	6	18:30 20:00					6		
水	1	8:40 10:10	41318118-保健医療経済学	41318116-臨床疫学				1	水
	2	10:30 12:00						2	
	3	13:00 14:30	41318318-医療安全管理学	41318121-医療コミュニケーション学実習(計8回)			3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10					5		
	6	18:30 20:00					6		
木	1	8:40 10:10		41318320-健康危機管理学	41318220-社会と健康Ⅰ*3	41318221-社会と健康Ⅱ	1	木	
	2	10:30 12:00							2
	3	13:00 14:30	41318113-医学データの統計解析	41318114-医学統計学演習	41318117-臨床疫学・経済学演習		3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10					5		
	6	18:30 20:00					6		
金	1	8:40 10:10			41318214-健康社会学	41318213-健康教育学*2	1	金	
	2	10:30 12:00	41318111-疫学研究と実践*1				2		
	3	13:00 14:30	41318312-医療情報システム学*4(6/14まで開講)		41318324-公共健康情報学実習		3		
	4	14:50 16:20					4		
	5	16:40 18:10	41318218-医療倫理学Ⅰ*3		41318219-医療倫理学Ⅱ		5		
	6	18:30 20:00					6		
夏季休業期間	8月	第2週	41318112-予防保健の実践と評価(8/5～9)						
	9月	第2週	41318124-医療技術評価学演習(9/9～11)						
		第2～3週	41318321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)						
		第5週	41318319-医療安全管理学実習(9/24～30)						

履修モデル「医療情報・臨床工学」

		夏学期(4月～7月)		冬学期(10月～2月)			
曜日	時限	前半8週		後半8週			
		4/5～5/24		6/3～7/26		10/1～11/22	
		予備: 5/27～5/31		予備: 7/29～8/2		11/25～12/20, 1/6～1/31	
						予備: 2/3～7	
月	1	8:40 10:10					1
	2	10:30 12:00			41318322-環境健康医学		2
	3	13:00 14:30	41318316-法医学・医事法学*3		41318317-法医学・医事法学演習		3
	4	14:50 16:20	41318412-公共健康医学特論				4
	5	16:40 18:10			41318311-健康医療政策学*4		5
	6	18:30 20:00					6
火	1	8:40 10:10		41318323-公共健康情報学	41318313-医療情報システム学実習(休講)		1
	2	10:30 12:00					2
	3	13:00 14:30	41318120-医療コミュニケーション学	41318217-健康増進科学	41318115-医学研究のデザイン*1		3
	4	14:50 16:20					4
	5	16:40 18:10	41318211-精神保健学Ⅰ*2		41318212-精神保健学Ⅱ		5
	6	18:30 20:00				6	
水	1	8:40 10:10	41318118-保健医療経済学	41318116-臨床疫学			1
	2	10:30 12:00					2
	3	13:00 14:30	41318318-医療安全管理学	41318121-医療コミュニケーション学実習(計8回)			3
	4	14:50 16:20					4
	5	16:40 18:10				5	
	6	18:30 20:00				6	
木	1	8:40 10:10		41318320-健康危機管理学	41318220-社会と健康Ⅰ*3	41318221-社会と健康Ⅱ	1
	2	10:30 12:00					
	3	13:00 14:30	41318113-医学データの統計解析	41318114-医学統計学演習	41318117-臨床疫学・経済学演習		3
	4	14:50 16:20					4
	5	16:40 18:10				5	
	6	18:30 20:00				6	
金	1	8:40 10:10		41318214-健康社会学		41318213-健康教育学*2	1
	2	10:30 12:00	41318111-疫学研究と実践*1				2
	3	13:00 14:30	41318312-医療情報システム学*4(6/14まで開講)		41318324-公共健康情報学実習		3
	4	14:50 16:20					4
	5	16:40 18:10	41318218-医療倫理学Ⅰ*3	41318219-医療倫理学Ⅱ			5
	6	18:30 20:00					6

夏季休業期間	8月	第2週	41318112-予防保健の実践と評価(8/5～9)
	9月	第2週	41318124-医療技術評価学演習(9/9～11)
		第2～3週	41318321-保健行政・健康危機管理学実習(9月上旬～中旬予定)
		第5週	41318319-医療安全管理学実習(9/24～30)

<MEMO>

5. シラバス

科 目 名	疫学研究と実践 [科目番号：41318111]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜・2 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	佐々木敏		
授 業 の 目 的	地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。 主な内容は次の通り：予防保健と疫学の関連、疫学的思考、疫学研究論文の読み方、疫学研究デザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務（特定保健指導等）における疫学研究の考え方と方法、保健業務や予防活動への研究成果の利用方法、その他。		
授 業 の 方 法	・各回ひとつのテーマを選んで講義を行う。 ・テーマ毎に資料が配布される。 ・5 回目から 14 回目までは毎回講義後に小レポートが課される。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 4/5 予防保健と疫学（序論） 2) 4/19 予防保健と疫学（歴史と役割） 3) 4/26 記述疫学の目的と方法 4) 4/27 生態学的研究の目的と方法 5) 5/10 横断研究の目的と方法 6) 5/17 測定誤差とその具体的な対策（1） 7) 5/24 測定誤差とその具体的な対策（2） 8) 5/31 症例対照研究の目的と方法 9) 6/7 コホート研究の目的と方法 10) 6/14 介入研究の目的と方法（1） 11) 6/21 介入研究の目的と方法（2） 12) 6/28 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法（1） 13) 7/5 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法（2） 14) 7/12 結果の予防保健活動への活用 15) 7/19 まとめ （追記）第 5 回目以後は小レポートの発表が随時加わる。		
教科書・参考書等	（参考書）わかりやすい EBN と栄養疫学. 佐々木敏/著（同文書院）		
成績評価の方法	出席（50%）、レポート（50%）で評価する。		
他の授業との関連	「予防保健の実践と評価」を学ぶための必須の基礎理論となる。 「医学データの統計解析」、「健康教育学」と関連する。		

科 目 名	予防保健の実践と評価 [科目番号：41318112]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	8月5～9日の2～4時限		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	佐々木敏		
授 業 の 目 的	地域・職域などをフィールドとして行う疫学研究や予防保健領域の実践活動の計画・実践・評価の方法、政策への活用などについて、さまざまな実例を用いて、実践者・研究者からの紹介を通じて学ぶ。理論だけでは解決できない現実に対して科学性を保ちながらどのように対処するかという実践的な視点からの予防保健の知識や技術の獲得を主な目的とする。		
授 業 の 方 法	・各回1テーマを選んで講義並びに討論（講師との質疑応答）を行う。 ・テーマごとに資料が配布される。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1) 8/5 科学としての予防保健・保健実践活動：その理論、技術、注意点について実例を交えながら紹介する(総論)。 2) 8/6 実生活・実社会の中で行う介入試験：実生活・実社会の中で行う介入試験はどのように計画され、実施されるべきかについて沖縄における食事介入研究を例として学ぶ。 3) 8/7 地域で行う大規模観察研究：わが国における代表的なコホート研究である久山町研究を例に、研究の意義、その歴史と実際、求められる技術などについて学ぶ。 4) 8/8 学校・職域などで行う生活習慣改善活動とその評価法：小学生や職員の生活習慣改善プログラムを例に、現場との連携の重要性やその技術、評価法などを中心に学ぶ。 5) 8/9 公衆衛生行政における疫学研究の意味と役割：公衆衛生行政の視点から、疫学研究や保健分野の調査・研究のあり方とその課題、その技術について学ぶ。 初回を除き、すべての日で、担当教員による基礎知識に関する講義、外来講師(実践者・研究者)による講義、外来講師を交えた討論を行う。 (注意)期日と内容は変更がありうる。公共健康医学専攻以外の学生は7月下旬に担当教官宛に事前確認をされたい。		
教科書・参考書等	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	出席(50%)、講義内で行う討論での質問・意見の質と量(50%)で評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」で学んだ知識・理論を実践につなげられる能力を養うことを目的とする。 「医学データの統計解析」「健康教育学」、「健康医療政策学」と関連する。		

科 目 名	医学データの統計解析 [科目番号：4 1 3 1 8 1 1 3]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	木曜・3～4 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大橋靖雄、松山 裕		
授 業 の 目 的	統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法、及びやや高度ながら身に付けておくべき統計解析手法について、実例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させると同時に、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。		
授 業 の 方 法	・ テーマごとに資料が配布される。適宜、参考書を用いた解説を加える。 ・ 毎回の講義に関連したミニレポートを毎週提出すること。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 月 11 日 医学研究における統計学の活用、仮説検定の考え方 4 月 18 日 治療効果・曝露効果の指標と 95%信頼区間 4 月 25 日 2 群の比較 5 月 2 日 層別解析・ロジスティック回帰 5 月 9 日 分散分析入門・相関と回帰 5 月 16 日 生存時間解析 5 月 23 日 経時データ解析入門、サンプルサイズ設計 5 月 30 日 評価尺度の信頼性と妥当性 期末試験の日時は未定 (例年は8月初め)		
教科書・参考書等	初級者向け参考書 ・ はじめて学ぶ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社) ・ 一歩進んだ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社) 中級者以上向け参考書 ・ 医学研究における実用統計学. DG Altman 著 木船・佐久間訳 (サイエンティスト社) ・ 医師のための臨床統計学 基礎編. 大橋靖雄 編著 医歯薬出版株式会社		
成績評価の方法	期末試験 (70%)、毎回の小レポート (10%)、出席 (20%) で評価する。		
他の授業との関連	・ 「医学統計学演習」履修のための基礎となる。 ・ 「疫学研究の実践」、「医学研究のデザイン」、「臨床疫学」、「保健医療経済学」と関連する。 ・ 初級者は健康総合科学科3年生に対する講義「疫学・生物統計学 (水曜日: 13:00-16:20)」の履修も勧める。		

科目名	医学統計学演習 [科目番号：41318114]		
学期	夏学期	単位数	2単位
曜日・授業時間帯	木曜・3～4時限		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	松山 裕、柴田大朗 (非常勤)		
授業の目的	「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト JMP で演習を行う。 また、実際の新医薬品申請資料をグループ内で検討することで、統計解析計画書・報告書の作成実習を行い、その成果に対して討論 (ディベート) を通じて理解を深める。		
授業の方法	- 最初に JMP の使用についての演習を行う。 - 前半は各テーマについて簡単なインストラクションを行い、ついで実例を用いた解析演習を行い、レポートを作成する。 - 後半では、統計解析計画書・報告書を作成し、その評価を相互に行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6月6日 JMP 入門 6月13日 2群の比較 6月20日 相関と回帰、分散分析 6月27日 分割表の解析とロジスティック回帰 7月4日 生存時間解析 7月11日 医薬品審査の概要と実際 (後半は医薬品審査実習) 7月18日 医薬品審査実習 7月25日 発表会		
教科書・参考書等	(参考書) 「医学データの統計解析」と同様 - SAS によるデータ解析入門 (東大出版会) - SAS による実験データの解析 (東大出版会) - 生存時間解析：SAS による生物統計 (東大出版会)		
成績評価の方法	出席とレポートで合・否判定する。		
他の授業との関連	「医学データの統計解析」履修を条件とする。 「医学研究のデザイン」と関連する。		

科 目 名	医学研究のデザイン [科目番号：4 1 3 1 8 1 1 5]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	火曜・3～4 時限 (8 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大橋靖雄、久保田潔 (兼担)、松岡 淨 (非常勤)		
授 業 の 目 的	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義とともに、事例研究 (ケーススタディ) を行う。プロトコル・シノプスを作成する演習を行い、その結果を討論により検討する。 主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。		
授 業 の 方 法	・ 各回テーマ毎に講義を行い、宿題 (小レポート) を課す。 ・ プロトコルシノプス作成演習課題を 1 1 月初めに提示する。グループにて作成し最終日に報告する。これを題材に討議を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/01 研究デザインの分類と特徴 測定の信頼性と標準化 10/08 臨床試験のデザインとプロトコル作成 その 1 臨床試験のデザインとプロトコル作成 その 2 10/15 臨床試験のデザインとプロトコル作成 その 3 臨床試験のデザインとプロトコル作成 その 4 10/22 CONSORT による論文のチェック 疫学研究のデザインとプロトコル作成 その 1 10/29 疫学研究のデザインとプロトコル作成 その 2 STROBE による論文のチェック 11/05 薬剤疫学 その 1 その 2 11/12 データマネージメントと品質管理 研究組織と運営 11/19 演習報告 その 1 演習報告 その 2		
教科書・参考書等	各講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 Hulley et al. (著) 木原・木原訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009.		
成績評価の方法	出席 (50%)、レポート・演習報告 (50%) で評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」、「臨床疫学」と関連する。		

科 目 名	臨床疫学 [科目番号：41318116]		
学 期	夏学期後半	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	水曜・1・2時限（8週）：		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担 当 教 員	康永秀生 吉村典子（東京大学医学部附属病院・関節疾患総合研究講座） 野口晴子（早稲田大学政治経済学術院） 堀口裕正（国立病院機構）		
授 業 の 目 的	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。		
授 業 の 方 法	原則として、事前に渡された関連文献を熟読してくること。それを前提として講義で基礎的知識を提供・整理したのち、既存の研究を題材にディスカッションをしてもらい知識の体系化を図る。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1)&2) 臨床疫学の基礎知識（康永）（6月5日1・2限） 3) 健診・検診（康永）（6月12日1限） 4) 臨床診断（康永）（6月12日2限） 5) リスク・予後（康永）（6月19日1限） 6) 治療（康永）（6月19日2限） 7) QOL 評価（康永）（6月26日1限） 8) 医療の質（康永）（6月26日2限） 9) 症例対照研究/コホート研究の理論（康永）（7月3日1限） 10) コホート研究の実際（吉村）（7月3日2限） 11)&12) 計量経済学手法の応用（野口）（7月10日1・2限） 13)&14) 大型データベースによる臨床疫学（康永・堀口）（7月17日1・2限） 15) 医療経済評価（康永）（7月24日1限） 2限は予備		
教科書・参考書等	Fletcher RW, Fletcher SW. Clinical Epidemiology; The Essentials. Fourth Edition. Lippincott, Williams & Wilkins. 2005		
成績評価の方法	出席点 50 点、レポート 50 点		
他の授業との関連	夏学期「疫学研究と実践」「医学データの統計解析」「医学研究のデザイン」などと関連		

科 目 名	臨床疫学・経済学演習 [科目番号：41318117]		
学 期	冬学期通期	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	木曜・3～4 時限 (15 週)		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担 当 教 員	康永秀生		
授 業 の 目 的	学生各人が、具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生学的関心に基づき、文献検索と仮説構築を行い、研究の proposal writing (研究の背景と目的の提示、データ収集の定式化並びに分析計画、必要リソースの見積もりと研究費の予算書作成など) ができる実践的なスキルを身につける。さらに医学英語論文の書き方の基本を学ぶ。10 名程度まで受け入れ可 (科研費申請や論文執筆の経験の有無は問わない)		
授 業 の 方 法	原則として、3 限は講義とクラス・ディスカッション、4 限は和文の研究計画書(文部科学研究・基盤 C または若手 B のフォーマットに従う)の作成と個別コンサルテーション。研究計画書を早く仕上げられた学生は、研究計画書に基づいて英文論文の Introduction と Method までの執筆にチャレンジする。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 文献検索と仮説構築 (10 月 3 日) 2) 科研費の概略 (10 月 10 日) 3) 研究費申請書における「目的」の書き方 (10 月 17 日) 4) 研究費申請書における「計画方法」の書き方 (10 月 24 日) 5) 研究費の構成・見積もり・計画 (11 月 7 日) 6) 個人情報保護と倫理申請書の作成 (11 月 14 日) 7) 科研費の審査、採択後の手続き (11 月 21 日) 8) 研究計画の中間発表 (11 月 28 日) 9) 英文医学論文を書くための準備 (12 月 5 日) 10) Introduction の書き方 (12 月 12 日) 11) Method, Result の書き方 (12 月 19 日) 12) Discussion, Conclusion の書き方 (1 月 9 日) 13) 投稿雑誌の選び方・査読者とのやりとり (1 月 16 日) 14) 研究計画書の最終チェック (1 月 23 日) 15) 研究計画の発表・評価 (1 月 30 日)		
教科書・参考書等	なし		
成績評価の方法	出席 50%、最終的に提出される研究計画書 50%により評価する。		
他の授業との関連	夏学期の「保健医療経済学」、「臨床疫学講義」などに関連する。		

科 目 名	保健医療経済学 [科目番号：41318118]		
学 期	夏学期前半	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	水曜・1－2時限 (7週)		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永秀生、泉田信行、後藤 励		
授 業 の 目 的	まず医療経済学の基礎を身につけた上で、成書に沿って医療経済学の考え方や理論について理解を深めてもらう。次に医療経済学の理論に沿って個別のミクロの問題を考察する力をつけてもらう。さらに応用編として、実証的な医療経済学分析の方法論について、具体的な事例を紹介する。		
授 業 の 方 法	講義、ディスカッション、レポート		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 医療経済学の基礎1 (康永) (4月10日 1限) 2) 医療経済学の基礎2 (康永) (4月10日 2限) 3) 保険の理論 (康永) (4月17日 1限) 4) 医療サービスの需要 (泉田) (4月17日 2限) 5) 医療サービスの生産 (康永) (4月24日 1限) 6) 医療従事者の労働市場 (泉田) (4月24日 2限) 7) 2次データの種類と利用申請 (康永) (5月1日 1限) 8) 費用効果分析、費用便益分析 (康永) (5月1日 2限) 9) 医療における競争・規制 (康永) (5月8日 1限) 10) 供給者誘発需要仮説 (泉田) (5月8日 2限) 11) 比較制度論 (康永) (5月15日 1限) 12) 日本の医療問題 (康永) (5月15日 2限) 13) 医療費 (康永) (5月22日 1限) 14) 生活習慣と行動変容 (後藤) (5月22日 2限) 5月29日は予備 ※各講義の順番は変更することがある		
教科書・参考書等	橋本英樹/泉田信行編；医療経済学講義 東京大学出版会		
成績評価の方法	出席50%、レポート50%		
他の授業との関連	「保健医療政策学」、「医療技術評価学演習」などに関連する。		

科 目 名	医療コミュニケーション学 [科目番号：41318120]		
学 期	夏学期（前半）	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	火曜3、4時限		
場 所	医学部・教育研究棟13階講義室		
担 当 教 員	木内貴弘、石川ひろの		
授 業 の 目 的	本講義の目的は、医療コミュニケーションの理論と実践方法を体系的に学習することにある。 医療コミュニケーションとは、医療従事者相互、医療従事者と患者間、患者相互等における医学・医療分野に関係した知識や情報のやりとりを意味する。医療コミュニケーションは、医学・医療と社会のインターフェイスとして、パブリックヘルス分野において、非常に重要な意味を持っている。従来、ヒト対ヒトのいわゆるヒューマンコミュニケーションを主体に考えられてきたが、現在では、これに加えて、インターネット、マスメディア、コンピュータ・ゲーム機等を介したコミュニケーションの意義・役割が増大している。 本講義では、個人あるいは社会としての最適な健康上のアウトカムを得るために、医学・医療に関する知識・情報を、正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうために必要な、(1)コミュニケーションの理論体系、(2)コミュニケーションの実務的方法論、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、医療コミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う（具体的な内容は下記の「授業計画及び内容」を参照のこと）。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。		
授 業 の 方 法	- 各回原則1テーマの講義を行う（2回で1テーマの講義もある）。 - テーマに基づいた追加資料の配布や実例の紹介を行うことがある。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	日時	内容	担当
	4月9日(火) 13:00-14:30	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーション学とは	木内貴弘
	4月9日(火) 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション カウンセリング入門	久田満 (上智大学)
	4月16日(火) 13:00-14:30	I. 医療コミュニケーション学総論 ソーシャルマーケティング	木内貴弘
	4月16日(火) 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者-医療者コミュニケーション (2) 医療機関の立場から	北村聖 (東京大学・医学教育国際協力研究センター)
	4月23日(火) 13:00-14:30 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者-医療者間コミュニケーション (1) 医療者のための実践的コミュニケーションスキル	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)
	4月30日(火) 13:00-14:30	III. メディアコミュニケーション エンターテインメント・エデュケーション	石川ひろの
	4月30日(火) 14:50-16:20	III. メディアコミュニケーション インターネット	木内貴弘
	5月7日(火) 13:00-14:30 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者-医療者間コミュニケーション (3) 患者の立場から	山口育子 (COML)
	5月14日(火) 13:00-14:30	III. メディアコミュニケーション マスメディアによるコミュニケーション (1) 新聞	阿部文彦 (読売新聞)

	5月14日(火) 14:50-16:20	Ⅲ. メディアコミュニケーション マスメディアによるコミュニケーション (2) テレビ	真崎理香 (NHK)
	5月21日(火) 13:00-14:30	Ⅲ. メディアコミュニケーション 健康キャンペーン	狩野雄司 (AC ジャパン)
	5月21日(火) 14:50-16:20	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーションの評価と実証研究	石川ひろの
	5月28日(火) 13:00-14:30	試験	
教科書・参考書等	• Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. Oxford University Press. 2009 • Teresa L. Thompson, Alicia Dorsey, Katherine Miller, Roxanne Parrott (Editor) Handbook of Health Communication, Lawrence Erlbaum, 2003 • ピーター・G. ノートハウス、ローレル・L. ノートハウス (著)、萩原明人 (訳). ヘルス・コミュニケーション—これからの医療者の必須技術. 九州大学出版会. 2010 • 藤崎和彦、橋本英樹 (著)、医療コミュニケーション研究会 (編). 医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ. 篠原出版新社. 2010		
成績評価の方法	講義への出席 (30%)、試験 (70%) による。		
他の授業との関連	医療コミュニケーション学は、公衆衛生学・医学・医療のあらゆる分野と関係しているが、健康社会学、健康教育学、健康増進科学、医療安全管理学との関係が深い。		

科 目 名	医療コミュニケーション学実習 [科目番号：41318121]		
学 期	夏学期（後半）	単 位 数	1単位
曜日・授業時間帯	水曜3－5限（MBTI実習のみ6限まで）		
場 所	医学部・教育研究棟13階講義室		
担 当 教 員	木内貴弘 石川ひろの		
授 業 の 目 的	医療コミュニケーションの実践に必要な実習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様々な理論や実践法に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。		
授 業 の 方 法	- 各回、課題にもとづいて実習・発表・討論を行う。 - 実習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	月 日	内 容	担 当
	6/5 13:00-18:10	I. 対人コミュニケーション実習 接遇実習	JAL アカデミー
	6/12 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 インターネットコミュニケーション実習（1） 注意：ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの
	6/19 13:00-20:00	I. 対人コミュニケーション実習 MBTIに基づくコミュニケーション実習（1）	園田由紀 （日本MBTI協会）
	6/26 13:00-20:00	I. 対人コミュニケーション実習 MBTIに基づくコミュニケーション実習（2）	園田由紀 （日本MBTI協会）
	7/3 13:00-18:10	I. 対人コミュニケーション実習 コーチング実習	田口智博 （三重大大学）
	7/10 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 マス・コミュニケーション実習 - 新聞記事の執筆と評価（記者会見実習） - 既存の新聞記事の評価・分析 注意：ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの
	7/17 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 インターネットコミュニケーション実習（2） 注意：ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの
教科書・参考書等	- 本間正人、松瀬理保. コーチング入門（日経文庫）、2006 - 園田由紀（訳）. MBTIへの招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開、金子書房、2002 - 梅田望夫. ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる（ちくま新書）、2006		
成績評価の方法	実習への参加、実習内でのプレゼンテーション、作成した資料によって評価する。やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出れば、別途レポートの提出に代える場合がある。		
他の授業との関連	「医療コミュニケーション学」講義の受講が望ましいが、「医療コミュニケーション学」講義の知識は前提としない。		

科 目 名	医療技術評価学演習 [科目番号：41318124]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	1単位
曜日・授業時間帯	集中（3日間） 9/9（月）～9/11（水） 5コマ×3日		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	康永秀生 福田敬（国立保健医療科学院） 五十嵐中（薬学系研究科）		
授 業 の 目 的	医療経済評価及びアウトカム評価の実践能力を身に付けるために、具体的な医療技術や薬剤を事例として取り上げ、グループ毎に評価研究のステップに従って、課題の設定、決定樹やマルコフモデルの作成、臨床結果及びコスト情報の収集、費用対効果の算出、感度分析などの一連の経済評価手法を学ぶ。		
授 業 の 方 法	各回、演習用マテリアルを配布し、各自解答を試みた後、グループ毎で検討する。グループ毎の結果を持ち寄って発表した後、全体で討論する。一部、電卓やパソコンを用いた演習を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	DAY1 1) 医療経済評価の概要1 DAY1 2) 医療経済評価の概要2 DAY1 3) コストの算出方法と課題 DAY1 4) 効用値の測定方法1 DAY1 5) 効用値の測定方法2 DAY2 6) メタアナリシス1 DAY2 7) メタアナリシス2 DAY2 8) モデルを用いた経済評価1 DAY2 9) モデルを用いた経済評価2 DAY2 10) モデルを用いた経済評価3 DAY3 11) 経済評価論文の批判的吟味1 DAY3 12) 経済評価論文の批判的吟味2 DAY3 13) 経済評価ガイドラインと経済評価データベース DAY3 14) 医療経済評価の活用1 DAY3 15) 医療経済評価の活用2		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。各回に演習用のマテリアルを配布する。 参考書は以下の通り。 ・「やさしく学ぶ薬剤経済学」、じほう 2003 ・「講座医療経済・政策学第4巻 医療技術・医薬品」、勁草書房 2005 ・「保健医療の経済的評価」、じほう 2003 ・「医療の経済評価」、医学書院 1999		
成績評価の方法	出席及び演習への参加状況により評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」、「医学研究のデザイン」、「臨床疫学」、「健康医療政策学」の各講義と関連する。		

科 目 名	精神保健学Ⅰ [科目番号：41318211]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	火曜日・5 限(16:40-18:10)		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階公共健康医学専攻講義室		
担 当 教 員	川上憲人、島津明人、非常勤講師		
授 業 の 目 的	精神保健の実態およびニーズを把握し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を知り、地域における対策の進め方について事例（ケーススタディ）を通じて学ぶことで、実践的な能力も身につけることを目的とする。		
授 業 の 方 法	各回 1 テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ） 担当教員（または非常勤講師）による講義、あるいは学生がテーマに関して発表しこれに担当教員が補足を行い、全員で討論（ディベート）する。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	4／9 1) オリエンテーション、総論 4／16 2) 精神疾患の診断、頻度と危険因子 4／23 3) 精神健康の測定と評価 4／30 4) 精神保健とサービス利用 5／7 5) 認知行動療法と精神保健 5／14 6) 世界の疾病負担 2010 と精神保健 5／21 7) 課題発表 1：精神保健の対策と効果（その 1） 5／28 8) 課題発表 1：精神保健の対策と効果（その 2） 6／4 9) トピックス①：うつ・自殺対策（国および秋田県の対策） 6／11 10) トピックス②：うつ・自殺対策（長崎県の対策） 6／18 11) トピックス③：職場のメンタルヘルス 6／25 12) トピックス④：精神障がいからのリカバリー 7／2 13) トピックス⑤：災害時の精神保健 7／9 14) トピックス⑥：精神保健行政の現状と課題 7／23 15) 課題発表 2（5，6 限）※ ※最終回のみ授業時間が 16:40-20:00 となるので注意すること。		
教科書・参考書等	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
成績評価の方法	出席、課題発表およびレポートにより総合的に評価する。		
他の授業との関連	職場における精神保健対策について学ぶ「精神保健学特論Ⅱ」と関連する。		

科 目 名	精神保健学Ⅱ [科目番号：41318212]		
学 期	冬学期	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火曜日・5限（16:40-18:10）		
場 所	医学部・教育研究棟13階 公共健康医学専攻講義室		
担 当 教 員	島津明人、川上憲人、非常勤講師		
授業の目的	職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。		
授業の方法	各回1テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ） 担当教員（または非常勤講師）による講義と全員での討論。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	10／ 1 コース概要，産業精神保健総論 10／ 8 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 10／15 ワーク・ライフ・バランスとメンタルヘルス 10／22 日本人の長時間労働について 10／29 キャリア発達とメンタルヘルス 11／ 5 職場環境改善の効果的な進め方 11／12 外部のメンタルヘルスサービス機関をどのように選定するか？ 11／19 現代型うつ病について 11／26 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 12／ 3 失業者のメンタルヘルス対策 12／10 労働者の復職支援プログラム 1／ 7 中小規模事業所のメンタルヘルス対策と公的支援体制 1／14 これからの職場のメンタルヘルス 1／21 経営学からみたメンタルヘルス		
教科書・参考書等	毎回、講義資料を配付する。		
成績評価の方法	出席（30%）、レポート（70%）により総合的に評価する。		
他の授業との関連	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが望ましい。		

科 目 名	健康教育学 [科目番号：41318213]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜 1～2 時限 (8 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	橋本英樹、岩永俊博 (ヘルスプロモーション研究センター)、岡田加奈子 (千葉大学)、戸津崎貴文 (みずほ銀行)		
授 業 の 目 的	生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。		
授 業 の 方 法	講義・ディスカッション		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	11/29 1)1 限 Micro-meso level of behavioral theories I 11/29 2)2 限 Micro-meso level of behavioral theories II 12/6 3)1 限 Population level of behavioral theories I 12/6 4)2 限 Population level of behavioral theories II 12/13 5)1 限 Empowerment approach in community I (岩永) 12/13 6)2 限 Empowerment approach in community II (岩永) 12/20 7)1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 12/20 8)2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 1/10 休講 (SPH 課題発表会) 1/17 9)1 限 Health education at school: Case method I (岡田) 1/17 10)2 限 Health education at school II (岡田) 1/24 11)1 限 Health literacy and communication 1/24 12)2 限 Decision support and negotiation 1/31 13)1 限 Wrap-up and discussion 1/31 14)2 限 Written exam		
教科書・参考書等	Glanz K, et al. Health Behavior and Health Education; Theory, Research and Practice. 4th eds. John Willey and Sons, 2008 畑 栄一, 土井 由利子. 行動科学—健康づくりのための理論と応用. 南江堂 第2版 :他、適宜配布		
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言 (40%)・課題およびレポート (60%)		
他の授業との関連	「予防保健の実践と評価」「健康増進科学」「社会と健康 I」などと関連する		

科目名	健康社会学 [科目番号：41318214]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜 1～2 時限（8 週）		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	橋本英樹、杉澤秀博（桜美林大学）、朝倉隆司（学芸大学）、中山和弘（聖路加看護大学）		
授 業 の 目 的	社会学の基本として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。学部と異なり、理論を中心に進める。		
授 業 の 方 法	講義・ディスカッション		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	10/4 1)1 限 Perspective of sociology 10/4 2)2 限 Perspective of “Health/medical sociology” 10/11 3)1 限 Medicine as social system 10/11 4)2 限 Medicine as power politics 10/18 5)1 限 The social world of doctor 10/18 6)2 限 The social world of patient 10/25 7)1 限 doctor-patient interaction 10/25 8)2 限 Sociology of “shared decision making” 11/1 9)1 限 Culture and health（朝倉） 11/1 10)2 限 Social support/network and health（杉澤） 11/8 11)1 限 Alternative and holistic medicine（中山） 11/8 12)2 限 Sociology of health promotion（中山） 11/15 13)1 限 Lay epidemiology and illness behavior 11/15 14)2 限 Sociology of body and health 11/22 15)1 限 Wrap up and discussion 2 限は予備		
教科書・参考書等	Lupton D. Medicine as culture; illness, disease, and the body. 2 nd eds. SAGE, 2003 他、適宜配布		
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)		
他の授業との関連	「社会と健康Ⅰ」「精神保健学」「医療倫理学」などに関連する		

科 目 名	健康増進科学 [科目番号：41318217]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	火曜・3～4 時限（8 週）		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 SPH 講義室		
担 当 教 員	李 廷秀		
授 業 の 目 的	健康増進科学の基本的な考え方と健康増進活動の実践について、歴史的背景と最新の動向から体系的に理解することを目的とする。 健康増進活動の実践については、栄養・食生活、運動・身体活動等の行動変容と、これらの行動と関連する社会的・地域における生活環境の観点から習得する。 具体的には、健康関連問題に関する種々の情報を収集・分析・アセスメントし、その結果から適切な健康関連問題の対策ならびにプログラムとしての集団アプローチと個別アプローチを立案・実施・評価する能力を養う。		
授 業 の 方 法	・ 各回 1 テーマの講義と少人数討論（ディベート） ・ 講義の際に資料を配付する		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	予定日 各回のテーマ 6 月 4 日 概論－そのⅠ（健康増進科学とは） 概論－そのⅡ（歴史と理論的背景） 6 月 11 日 健康問題のアセスメントと課題設定（循環器疾患） 健康問題のアセスメントと課題設定（循環器疾患危険因子） 6 月 18 日 健康問題のアセスメントと課題設定（悪性新生物） 健康問題のアセスメントと課題設定（悪性新生物の危険因子） 6 月 25 日 生活行動のアセスメントと対策（身体活動・運動） 生活環境のアセスメントと対策（生活環境） 7 月 2 日 生活行動のアセスメントと対策（栄養・食生活） 生活環境のアセスメントと対策（食環境） 7 月 9 日 介入プログラムの立案（行動変容理論） 介入プログラムの実施・評価（行動変容理論の適用） 7 月 16 日 介入プログラムの実施の実際（肥満・代謝性疾患） 介入プログラムの実施の評価（肥満・代謝性疾患） 7 月 23 日 高齢者の健康増進科学 エビデンスと施策評価		
教科書・参考書等	・ 国民衛生の動向（厚生統計協会、厚生指標臨時増刊） ・ 予防医学のストラテジー（医学書院） ・ ヘルスプロモーション（医学書院） ・ 実践 ヘルスプロモーション（医学書院） ・ 健康行動と健康教育（医学書院） ・ 国保ヘルスアップモデル事業個別健康支援プログラム実施マニュアル（厚生労働省） 標準的な健診・保健指導に関するプログラム（(厚生労働省)		
成績評価の方法	授業毎のレポートに出席状況を加味する		
他の授業との関連			

科目番号	41318218	授業科目名	医療倫理学 I		
学 期	夏学期	曜 日	金曜	時 限	5～6 時限
担 当 教 員	赤林 朗、瀧本 禎之				
講 義 室	医学部教育研究棟 13F SPH 講義室				
授業開始日	4月5日				
授 業 の 目 的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。				
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。				
授 業 日 程	4/5 1) 生命・医療倫理学とは／倫理学の基礎 1 4/19 2) 倫理学の基礎 2／守秘義務 4/26 3) 医療倫理の原則と重要概念／研究倫理 1 5/10 4) 臨床症例の倫理的検討法 5/17 5) 倫理コンサルテーション 1 5/24 6) IC の法理 5/31 7) 模擬倫理委員会				
教科書及び参考書	・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 I』勁草書房 ・ Jonsen, A.R. et al. 著 (赤林、蔵田、児玉監訳)『第5版臨床倫理学―臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著『ケースブック 医療倫理』医学書院 ・ Hope, T. 著 (児玉聡・赤林朗訳)『一冊で分かる医療倫理』岩波書店				
成績評価	出席、及び最終レポートにより評価する。				
そ の 他	「医療倫理学 II」受講の基礎となる内容である。				

科目番号	41318219	授業科目名	医療倫理学 II		
学 期	夏学期	曜 日	金曜	時 限	5～6 時限
担 当 教 員	赤林 朗、瀧本 禎之				
講 義 室	医学部教育研究棟 13F SPH 講義室				
授業開始日	6月7日				
授 業 の 目 的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方について、「医療倫理学特論 I」で取り上げた項目をさらに深く論じる。政治哲学、資源配分、健康格差の問題などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。				
授 業 の 方 法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。				
授 業 日 程	6/7 1) 公衆衛生の倫理学入門 6/14 2) 公衆衛生と政治哲学 6/21 3) 研究倫理 2 6/28 4) 倫理コンサルテーション 2 7/5 5) 資源配分と新型インフルエンザ 7/12 6) 健康格差と正義 7/19 7) 倫理コンサルテーション 3				
教科書及び参考書	・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 I』勁草書房 ・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理 II』勁草書房 ・ ウィル・キムリッカ、『新版 現代政治理論』、日本経済評論社 ・ ノーマン・ダニエルズ他、『健康格差と正義』、勁草書房				
成績評価	出席、及び最終レポートにより評価する。				
そ の 他	受講者は「医療倫理学 I」を履修していることが望ましい。				

科目名	社会と健康Ⅰ [科目番号：41318220]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	木曜 1～2 時限 (8 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	近藤尚己、橋本英樹、児玉聡 (京都大)、堤明純 (北里大)、藤原武男 (成育医療研究センター)、本庄かおり (大阪大)		
授 業 の 目 的	教育・経済状況 (貧困)・社会的孤立・住環境・就労環境・社会的ネットワークなど、健康に影響を与える社会的な要因 (Social Determinants of Health: SDH) について、とその理論的背景・実証研究・現時点の実証および実践上の課題について鳥瞰する。		
授 業 の 方 法	講義・事前配布資料・レポート		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/3 1)1 限 社会疫学概論 (近藤) 10/3 2)2 限 健康社会学概論 (橋本) 10/10 3)1 限 社会経済状況 (学歴・所得・職業・社会的排除) (近藤) 10/10 4)2 限 景気動向・所得格差 (近藤) 10/17 5)1 限 社会的ネットワーク (近藤) 10/17 6)2 限 ソーシャル・キャピタル (近藤) 10/24 7)1 限 レポート課題 (選択したテーマについて) 10/24 8)2 限 レポート課題 (近隣環境と健康格差) 10/31 9)1 限 差別 (近藤) 10/31 10)2 限 職業階層・職業性ストレスと健康 (堤) 11/7 11)1 限 マルチレベル分析 11/7 12)2 限 ジェンダー格差 (本庄) 11/14 13)1 限 社会疫学研究のバイアス制御 11/14 14)2 限 胎児期からの社会環境：ライフコース疫学 (藤原) 11/21 15)2 限 健康の平等と倫理 (児玉)		
教科書・参考書等	「社会格差と健康：社会疫学からのアプローチ」川上憲人ほか 「予防医学のストラテジー」ジェフリー・ローズ 「ソーシャル・キャピタルと健康」イチロー・カワチほか 他、適宜配布		
成績評価の方法	出席態度 (40%)・レポート (60%)		
他の授業との関連	「社会と健康Ⅱ」「精神保健学」「医療倫理学」など		

科目名	社会と健康Ⅱ [科目番号：41318221]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	木曜 1～2 時限（8 週）		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	近藤尚己		
授 業 の 目 的	健康日本 21（第 2 次）では、社会環境の改善による「健康格差の縮小」が基本姿勢の 1 つに追加された。「社会と健康Ⅰ」で学んだ知識をベースに、健康格差対策の進め方について実践的に学ぶ。既存の実践理論モデル、介入、政策の事例を紹介し、その利点、欠点を考察する。初回講義で各人にテーマを割り振り、順次発表し、ディスカッションする。		
授 業 の 方 法	講義・レポート・課題発表・討論		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	11/28 1)1 限 オリエンテーション 11/28 2)2 限 健康格差対策のストラテジー概論 12/ 5 3)1 限 課題発表 1 12/ 5 4)2 限 ポピュレーションアプローチによる健康格差対策 12/19 5)1 限 課題発表 2 12/19 6)2 限 事例検討：健康格差のモニタリング：手法と現状 1 / 9 7)1 限 課題発表 3 1 / 9 8)2 限 事例検討：医療アクセス格差対策 1 /16 9)1 限 課題発表 4 1 /16 10)2 限 講義：健康影響評価の概念と進め方 1 /23 11)1 限 健康影響評価(HIA) 演習 1 /23 12)2 限 健康影響評価(HIA) 演習 1 /30 13)1 限 課題発表 5 1 /30 14)2 限 事例検討：小児の栄養教育における健康格差対策		
教科書・参考書等	ほか、適宜配布		
成績評価の方法	出席態度(30%)・レポート(40%)・課題発表 (30%)		
他の授業との関連	「社会と健康Ⅰ」を履修することが望ましい。		

科 目 名	健康医療政策学 [科目番号：41318311]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	月曜 5 時限		
場 所	医学部・教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻講義室		
担 当 教 員	小林廉毅、東 尚弘、 馬場園 明 (九州大学医療経営・管理学)		
授 業 の 目 的	疾病予防対策、医療制度、診療報酬、医療の質など、種々の健康・医療に関わる問題の背景並びに政策の立案、広報・報道、実施、評価、社会への影響について、様々なステークホルダー（利害関係者など）の立場、関連の法規・制度、費用負担のあり方などを体系的に学習するとともに、事例（ケース）を通じて実際に理解する。		
授 業 の 方 法	講義及び事例研究（ケーススタディ）、討論（ディベート）などによる。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	①10/7 エビデンス（科学的根拠）と健康医療政策（小林） ②10/21 健康政策としての健診・検診（小林） ③10/28 診療報酬による政策誘導（小林） ④11/11 レセプトオンライン化に至る政策決定過程（外部講師 岡本先生）（小林） ⑤11/18 米国医療制度の基礎知識（東） ⑥11/25 なぜ米国は国民皆保険でないのかー比較医療制度論（小林） ⑦12/2 なぜ我が国ではがん検診が成果を挙げていないのか（外部講師 斎藤先生）（東） ⑧12/9 医療の質一定義、評価、利用（東） ⑨12/16 政策提言の策定における課題（東） ⑩1/6 日本における医療政策決定過程（外部講師 前村先生）（東） ⑪1/20 （4 時限 14:50-16:20）特別講義（馬場園講師） ⑫〃 （5 時限 16:40-18:10）〃（〃） ⑬1/27 （4 時限 14:50-16:20）特別講義（TBA） ⑭〃 （5 時限 16:40-18:10）試験		
教科書・参考書等	「国民衛生の動向」（厚生統計協会）		
成績評価の方法	出席（約 30%）、小レポート（約 20%）、筆記試験（約 50%）に基づいて評価する。		
他の授業との関連	「疫学研究と実践」「保健医療経済学」と関連する。		

科 目 名	医療情報システム学 [科目番号：41318312]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	金曜・3～4時限 (詳細日程は初回に説明)		
場 所	医学部・教育研究棟 SPH 講義室		
担 当 教 員	教授：大江和彦 他		
授 業 の 目 的	現在の医療が抱える課題を IT による解決していくにはどうしたらよいかについて理解し、臨床的なエビデンスや医療変革のための知見を得るための基盤情報システムとしての電子カルテやレセプトのデータベースの意義と課題を理解する。また医療情報がどのように医療サービスシステムの中で管理・活用されるべきかについて議論する。こうしたことを通じて現在の医療システムの変革につなげる方策と制度との関連性を学ぶ。また医療データを扱う上で避けて通れないデータのコーディングと標準化の重要性について理解する。		
授 業 の 方 法	医療サービスやそれに関わる医療 IT 政策、地域医療におけるフィールド実証実験に関するテーマをひとつずつ順にとりあげ、それぞれにおいて医療情報システム、データベース、情報通信技術 (IT)、法令や制度がどのように関わり、課題と関連しているかについて講義をしたあとで、それについて議論し、最後に発表を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	2013 年 4 月 19 日 (初回) に全体の授業計画を説明する。全体は 15 コマからなる。外部講師の都合や理解度の進捗などに寄って各回のテーマを入れ替えることがある。 4 月 19 日 国内外の医療情報化政策と関連する情報技術基盤、制度の概要 4 月 26 日 電子カルテシステムの基礎と課題 5 月 10 日 政府が進めるところでも MY 病院とシームレスな医療連携構想 5 月 17 日 レセプトの電子化とナショナルレセプトデータベース 5 月 24 日 地域医療情報連携ネットワークの現状 5 月 31 日 情報の安全管理と個人情報保護 6 月 7 日 日本版センチネルデータベースと大規模データベース 6 月 14 日 総合討論、試験		
教科書・参考書等	・ 医療情報 情報処理技術編 (篠原出版新社) ・ 医療情報 医療情報システム編 (篠原出版新社) ・ 内閣官房 IT 戦略本部 新たな情報通信技術戦略および工程表 http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/		
成績評価の方法	出席率 20%、討論 30%、レポート (含試験) 点数 50%の比重で総合的に判定する。		
他の授業との関連	保健医療経済学：医療経済学的観点で医療情報システムを理解する上で関連性を有する。 医療コミュニケーション学：医療情報システムのパブリックリレーション面での役割を考える上で関連性を有する。 臨床情報工学：臨床データの処理技法、情報工学の知識を身に付けるうえで、関連性が強く、同時に受講することが望ましい。		

科 目 名	法医学・医事法学 [科目番号：41318316]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	月曜・3 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	吉田謙一		
授 業 の 目 的	1) 異状死とは、臨床医が確実に診断した病死以外の全ての死である。先進国では、公的死因究明する対象と考えられている。しかし、日本では、警察の関与、情報利用の法的制限等の問題から、医療者に死因究明の意義が伝わらず、また公衆衛生上の利用ができない。このような死因究明の問題点と意義を理解する。 2) 死因は、法的責任の判断、個人の権利に係ることが多い。医療従事者として患者・家族へ対応すべき事項や社会から求められる事項を、類型別に関連法規・判例等と関連づけて理解する。 3) 異状死に含まれる事故死・診療関連死・突然死・交通事故関連死・過労死・虐待死等における死因決定の考え方、及び傷害・事故・ストレス・環境要因等の外因と素因・既往症等の内因の死への寄与度の判断の考え方を理解する。 4) 異状死や診療関連死の調査制度に関する国内外の状況について理解する。そして、制度の矛盾を分析し、どのように制度を革新するかについて考える。 5) 授業は、臨床経験を持ち、問題意識の強い学生の質問によって、例年、自然と対話形式を織り交ぜた活発なものとなっている。		
授 業 の 方 法	事例を中心とした講義形式		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4/15～ 1) 異状死・診療関連死と死因究明制度 2) 死因論・死亡診断書上の死因の考え方 3) 突然死とストレス 4) 労災と過労死 5) 損傷総論 6) 頭部外傷と脳出血 7) 胸腹部損傷、骨盤・脊髄損傷 8) ショックと関連する病態・塞栓症など 9) 交通事故・賠償科学 10) 異常環境 11) 窒息 12) 胎児・新生児・出産をめぐる諸問題、虐待 13) 中毒 14) 医事法・医療情報 15) 医療紛争		
教科書・参考書等	(教科書) ・ 吉田謙一著「事例に学ぶ法医学・医事法」有斐閣 (2010 年)		
成績評価の方法	筆記試験。レポート、出席を加味する。		
他の授業との関連	東大の医学部、法学部、法科大学院の講義内容と近いので、再履修は必要ない。ただし、後期の演習は、弁護士、厚労省技官等の対話形式の講義に加えて、裁判所見学 (回折あり) 等があり、単独で履修するメリットはあると思われる。		

科 目 名	法医学・医事法学演習 [科目番号：4 1 3 1 8 3 1 7]		
学 期	冬学期	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	月曜・3～4 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	吉田謙一、古笛恵子 (コブエ法律事務所, 早稲田大学非常勤講師)、廣瀬佳恵 (厚生労働省医系技官)、阿部隆徳 (大阪大学特任教授、弁護士、NY 州弁護士)		
授 業 の 目 的	1) 法医学・医事法学の講義の内容をもとに、事例に即した演習を行い、死因の決定や責任判断の過程を学ぶ。 2) 判例演習や法廷見学を通じて、医学と法学の考え方の違いを学ぶ。 3) 診療関連死に関する法と制度の問題点を理解し、外国の制度と比較し、新しい法・制度のあり方を考える。		
授 業 の 方 法	解剖見学等を通じた法医実務の理解、及び判例演習や法廷見学を通じた医事法的実務の習得。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/7～ 1) 医療紛争・医療過誤 (吉田) 2) 医療判例の読み方 (奥津) 3) 診療情報と遺族対応に関する問題 (辻村) 4) 医療事故調査に関する制度 (中島) 5) 事故調査制度～行政の立場から、医系技官の実態 (医療安全対策室) 6) 行政処分、ADR (吉田) 7) 医療事故・医療紛争～民事賠償の観点から (古笛) 8) 医療事故・医療紛争～日米比較の観点から (阿部) 9) 裁判所見学 (適宜日程調整)		
	(教科書) ・ 吉田謙一著「事例に学ぶ法医学・医事法」有斐閣 (2010 年) (参考書) ・ 畔柳達雄、高瀬浩造、前田順司著「わかりやすい医療裁判処方箋」判例タイムズ社 (2004 年)		
成績評価の方法	出席、レポート、受講態度で評価する。		
他の授業との関連	夏学期の法医学・医事法学の履修が望ましいが、必須ではない (東大における既履修者は、前期履修不要)。		

科 目 名	医療安全管理学 [科目番号：4 1 3 1 8 3 1 8]		
学 期	夏学期	単 位 数	1 (90 分×8 回)
曜日・授業時間帯	水曜・3～4 時限 (4 週)		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	児玉安司		
授 業 の 目 的	医療安全管理とは、①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。本講義では、これらに関連する重要な問題について基礎知識を習得することを目的として、講義を行う。		
授 業 の 方 法	・各回 1 テーマを選んで講義を行う。 ・テーマ毎に資料が配布される。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<u>第 1 回 (4 月 17 日)</u> ①医療安全管理学総論 ②患者からの苦情相談への対応 <u>第 2 回 (4 月 24 日)</u> ③医療機能評価機構の取り組み ④専門性の相互理解と共有 <u>第 3 回 (5 月 8 日)</u> ⑤自治体の医療安全支援センターの取り組み ⑥東大病院における医療安全管理活動 <u>第 4 回 (5 月 15 日)</u> ⑦事故調査委員会と報告書のあり方 ⑧試験		
教科書・参考書等	【参考書】 ・ヘルスケアリスクマネジメント 中島和江・児玉安司 (医学書院) ・医療安全ことはじめ 中島和江・児玉安司 (医学書院) ・その他、講義の際に、必要に応じて、紹介する。		
成績評価の方法	試験により評価する。		
他の授業との関連	本講義に関連して、医療安全管理学実習を実施する。実習の履修は、本講義を履修するための必要条件ではない。		

科 目 名	医療安全管理学実習 [科目番号：41318319]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	0.5 (90分×12回)
曜日・授業時間帯	9月24日、25日・1～6時限		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	児玉安司		
授業の目的	医療安全管理とは、①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。 本授業では、各種の医療機関で多様な医療安全対策と患者苦情対応の体制が整備されつつあることを認識し、医療安全管理活動に関する今後のあり方について考察することを目的とする。		
授業の方法	東大病院や他の医療機関での聞き取り調査および観察実習とそれに基づく今後のあり方についての考察。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	2日間で下記プログラムの実習を行うものとする。 1. <u>チームワーク・トレーニングと、医療事故の事例分析 (RCA)</u> コミュニケーション・ツール (TeamSTEPPS) についてのグループワーク RCA の概要と実際 事例を用いた RCA グループワーク グループ発表・総括 ※東大病院の職員 (参加希望者) とともにグループ討議を行う 2. <u>医療機関での調査・実習</u> 都内病院見学とディスカッション ・医療安全対策部門の概況・活動の見学 ・患者相談・臨床倫理部門の概況・活動の見学 ・他の医療機関の医療安全対策についての報告会		
教科書・参考書等	【参考書】 ・RCA 根本原因分析法実践マニュアル 石川雅彦 (医学書院) ・医療安全ことはじめ 中島和江・児玉安司 (医学書院) ・その他、講義の際に、必要に応じて、紹介する。		
成績評価の方法	出席状況および実習報告書の内容で評価する。		
他の授業との関連	別に実施する医療安全管理学 (講義) を履修することが望ましい。ただし、必要条件ではない。		

科 目 名	保健行政・健康危機管理学実習 [科目番号：41318321]		
学 期	夏季休業期間	単 位 数	2 単位
曜日・授業時間帯	集中（9月上旬～中旬を予定している）		
場 所	保健所、研究室等		
担 当 教 員	小林廉毅 田中良明（江東区深川保健相談所所長）		
授 業 の 目 的	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。 （本実習の対象者は将来、公衆衛生行政に進むことを希望しており、実習先の指定する資格を取得している者に限定する。また、受け入れ施設の都合により履修人数を制限することがある。）		
授 業 の 方 法	保健行政・健康危機管理の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、実習を行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	実習先（保健所等）における実習計画に基づいて行う。		
教科書・参考書等	「衛生行政大要」（日本公衆衛生協会、2009年）		
成績評価の方法	出席、実習態度、実習報告書に基づいて評価する（可否で判定）。		
他の授業との関連	「健康危機管理学」の履修を必須とする。		

科 目 名	環境健康医学 [科目番号：41318322]		
学 期	冬学期	単 位 数	1 単位
曜日・授業時間帯	月曜・2 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	遠山千春		
授 業 の 目 的	ヒトは、大気、水、食品などの環境から様々な有害な化学物質を体内に取り込んでいる。他方、事故により、中毒量を取り込む場合もある。 様々な有害物質による健康影響に関する歴史から今日的な問題についての講義を行う。また、健康影響の同定、量反応関係、有害影響が現れる病態発生のメカニズムとその影響を初期に診断するためのバイオマーカー、環境防御対策などについての基本的な知識と考え方を教授する。		
授 業 の 方 法	担当教員等による講義で、全 8 回の予定。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 10 月 7 日 環境・人間・生態系——健康環境科学とは？ 遠山千春（東京大学・健康環境医工学） 2) 10 月 21 日 化学物質の代謝的活性化・不活性化及びその個人差の要因 山田英之（九州大学・臨床薬学） 3) 10 月 28 日 環境と健康リスク：リスク評価からリスク管理へ 武林 亨（慶應義塾大学・衛生学公衆衛生学） 4) 11 月 11 日 大気汚染の健康影響、特に気管支喘息について 嵯峨井 勝（つくば健康生活研究所） 5) 11 月 18 日 睡眠と労働（労働生理の立場から） 中川秀昭（金沢医科大学・公衆衛生学） 6) 11 月 25 日 環境化学物質のケミカルバイオロジー 熊谷嘉人（筑波大学・環境医学） 7) 12 月 2 日 ゲノム情報の予防医学への応用ー環境中化学物質への感受性の個人差ー 加藤貴彦（熊本大学 環境生命科学） 8) 12 月 9 日 アスベストの健康影響（仮） 車谷典男（奈良県立医科大学・地域健康医学）		
教科書・参考書等	適宜、指定する。		
成績評価の方法	すべての出席とレポート提出を前提として、両者をほぼ同じ比重で評価する。		
他の授業との関連			

科 目 名	公共健康情報学 [科目番号:41318323]		
学 期	夏学期	単 位 数	2 単位
曜 日・授 業 時 間 帯	火曜日1～2時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	小山博史及び非常勤講師予定(中山健夫先生、若尾文彦先生)		
授 業 の 目 的	公共保健分野における情報処理の基礎について理解すること。		
授 業 の 方 法	各回 1 テーマの講義を行う。テーマによって資料を事前に Wiki 上で配布し、質疑応答を中心に講義を行う。講義期間中の疑問等は受講者専用 Blog サイトを用いて対応予定。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	【対象】公共健康分野における情報処理について研究したい人。(特にプログラミング能力を有する必要はありません。) 【内容】教科書として Public Health Informatics and Information Systems を題材に公共保健分野における情報処理の基礎について質疑応答を中心とした講義を行う。 【概要】(非常勤講師の都合で一部日程の変更の可能性あり) 6月4日[歴史と概論] ● Public Health Informatics 概論 ● 日米の Public Health Information Systems 整備の歴史 6月11日[各種サーベイランスの情報基盤] ● 感染症サーベイランスにおける情報処理 ● 予防接種登録サーベイランスにおける情報処理 6月18日[個票データの集収と管理] ● 疾患登録における情報処理(がん登録) ● Public Health Informatics におけるゲノム関連情報処理 6月25日[地理情報の解析] ● 空間疫学概論 ● Public Health Informatics における地理情報システム(GIS)の利用 7月2日[公共健康データの蓄積] ● リスクファクターデータベース ● 中毒・環境汚染データベース 7月9日[公共健康データベースの検索と利用] ● 公共保健のための知識ベース ● 新興感染症に関する国際情報ネットワーク 7月16日[公共健康情報の提供・普及] ● がん情報サービス(仮題). 若尾文彦先生 (国立がん研究センターがん対策情報センターセンター長)(予定) ● エビデンスからガイドラインへ(仮題). 中山健夫先生(京都大学教授)(予定) 7月23日 ● 公共保健情報処理に関連する法と規制 ● 総合討論・試験(小山博史)		
教科書・参考書等	D.A. Ross, A.R. et al., Public Health Informatics and Information Systems. Publisher: Springer; 1 edition (October 16, 2002)		
成績評価の方法	出席(約30%)、小テスト(約30%)、期末試験(約40%)により評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学と関連性が深く、共に受講することが望ましい。		

科目名	公共健康情報学実習 [科目番号:41318324]		
学 期	冬学期	単 位 数	1 単位
曜日・授業時間帯	金曜 3-4 時限		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室予定		
担当教員	小山博史及び非常勤講師 (山口直人先生、新保卓郎先生予定)		
授 業 の 目 的	R を用いた地理空間データ処理法の習得と公共医療保健領域における代表的な情報システムの理解。		
授 業 の 方 法	コンピュータ上の R を用いた地理空間データ処理法の習得と国内における代表的な公共保健医療分野における情報システム化の意義と課題についての研究発表形式の実習予定。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	【対象】R を用いた地理空間データ処理法の習得と公共保健医療分野における代表的な情報通信システムの評価法について研究を行いたい人。 【内容】R を用いた地理空間データ処理法の習得を行い、次に代表的な事例としてがん登録事業、EBM 診療ガイドライン、がん情報サービス、臨床研究支援事業における情報システムの評価に関する事例研究を行う。 【R を用いた地理空間分析入門】 1. 地理空間データ処理の基礎 2. 地理空間分布パターン分析 3. ネットワーク分析 4. 地理空間相関分析 【事例研究予定】 1. 院内がん登録支援情報システム (東京大学医学部附属病院) (予定) 2. 臨床研究支援情報システム (国立国際医療センター) (予定) 3. EBM 診療ガイドラインの情報システム (医療機能評価機構) (予定) 4. がん相談支援システム (国立がん研究センター) (予定)		
教科書・参考書等	実習の手引きを中心に行う。 R のダウンロードサイト (http://www.r-project.org/)		
成績評価の方法	出席 (約50%) とレポート (約50%) により評価する。		
他の授業との関連	医療情報システム学、医療コミュニケーション学と関係が深く、共に受講することが望ましい。		

科 目 名	インターンシップ [科目番号：41318411]		
学 期	夏期休暇期間または冬期休業期間	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	9月中の2～3週間（募集7月中旬）または3月中の2～3週間（募集1月中旬）		
場 所	公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・NGO、企業の臨床試験担当部門、医療機関の情報担当部門など（下記受入先一覧参照）		
担 当 教 員	大橋靖雄		
授 業 の 目 的	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	学生が自らの関心に応じて、あらかじめ用意されたインターンシップ受け入れ先（組織、下記参照）を担当教員に提示した後、担当教員がコーディネーターとなり、学生の意欲や適性と受け入れ先の状況に応じて、受け入れ先と調整を行い、派遣先を決定後、実施する。＊募集期間7月中旬および1月中旬		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	インターンシップ実施にあたって、あらかじめ、学生、責任教員及び受け入れ先と綿密に打ち合わせの上、実習計画を立て、それに基づいて実習を行う。 ○受入先一覧		
	No	インターンシップ受入先及びテーマ（予定）	
	1	独立行政法人 国立健康・栄養研究所 栄養疫学に関するデータ収集および分析の援助	
	2	NPO メンタルケア協議会 ①診療所新規受診患者の追跡調査データ収集と分析の援助 ②自殺相談ダイヤル相談記録から、相談者傾向の分析等の援助 ③被災地こころの相談電話のボランティア業務の手配や実績収集の援助	
	3	財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 ①認知症ケアに関する文献調査 ②医療経済評価また地域連携パスに関する研究補助	
	4	独立行政法人国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報・統計部 乳癌疫学研究（コホート研究など）の計画と実施に対する支援	
	5	財団法人 パブリックヘルスリサーチセンター 臨床研究支援事業（CKD コホート研究、生活習慣病に関する臨床試験など）に関連したデータ収集および分析の援助	
	6	NPO 日本臨床研究支援ユニット 乳癌検診・大腸癌検診・循環器領域などの大規模臨床試験に関連した研究管理とデータ管理の援助	
	7	株式会社 マッキンゼーヘルスケアワールドワイドジャパン ①「働く」を科学する：元気な職場のつくり方 ②保健事業の評価のありかたに関する検討 ③自殺予防に関する地域介入プログラムの立案	
	8	特定非営利活動法人 ヘルスサービスR&Dセンター ①奈良県医療再生計画に関わる調査・データ収集・分析、医療機関訪問等 ②奈良県における救急医療システムの構築等	
	9	株式会社 三菱総合研究所（夏季のみ） 保健、医療、介護に関わるプロジェクト分析やコンサルティング業務などについて体験する	

教科書・参考書等	特に指定しない。
成績評価の方法	出席、実習態度、インターンシップ報告書に基づいて評価する。
他の授業との関連	

科 目 名	公共健康医学特論 [科目番号：41318412]		
学 期	夏学期	単 位 数	2単位
曜日・授業時間帯	月曜・4時限（13週）；補講分として7月29日4限		
場 所	医学部教育研究棟13階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担 当 教 員	公共健康医学専攻 担当教員（調整幹事 保健社会行動学分野）		
授 業 の 目 的	公共健康医学専攻の全13分野から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める		
授 業 の 方 法	・ 13担当分野から、公共の観点に則したテーマを選んで講義を行う。 ・ テーマごとに資料が配布される。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	1) 4月15日 イン트로ダクション 公共健康医学の視座（橋本） 2) 4月22日 公共健康情報学概論（小山） 3) 5月13日 医療倫理学概説（赤林） 4) 5月20日 公衆栄養学・予防栄養学の役割と課題（佐々木） 5) 5月27日 最近の健康増進に関わる公共政策（李） 6) 6月3日 精神保健研究トピックス（川上・島津） 7) 6月10日 産科医療補償制度（小林） 8) 6月17日 保健医療におけるサイエンスコミュニケーション（石川・木内） 9) 6月24日 環境と中毒：歴史からの教訓と健康科学の役割（遠山） 10) 7月1日 景気動向と健康（近藤） 11) 7月8日 死因究明と医療の管理に係わる行政機関について（吉田） 12) 7月22日 大規模保健医療データベースの構築と活用（康永） 13) 7月29日 臨床試験成績の解釈と公共への発信（大橋）		
教科書・参考書等	各講義毎に異なるので適宜指示する。		
成績評価の方法	各回ごとに出席・レポートなどを総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連	他の授業のすべてと関連を有する。		

科 目 名	課題研究 [科目番号：41318511]		
学 期	通年	単 位 数	6 単位
曜日・授業時間帯	指導教員の指定する曜日・時間帯		
場 所	指導教員の指定する研究室		
担 当 教 員	各指導教員		
授 業 の 目 的	公衆衛生学の諸領域における高度な問題解決能力を身に付ける。		
授 業 の 方 法	特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）。資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	—		
教科書・参考書等			
成績評価の方法	出席状況及び課題研究の成果（課題研究論文）で評価する。		
他の授業との関連			

6. 公共健康医学専攻成績評価規則

公共健康医学専攻成績評価規則

制定 平19. 4. 1

(成績の区分)

第1条 学生の成績は、A+, A, B, C, F の5段階とし、C以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

(成績区分の標準)

第2条 A+, A, B, C, F の基準は、下記の通りとする。A+はおおむね受講者総数の10パーセントとする。

A+ 90点以上

A 80点以上

B 70点以上

C 60点以上

F 不合格 (60点未満)

(成績評価)

第3条 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある演習科目、受講生の少ない科目等では、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。

3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、5段階評価で通知する。

(成績に関する説明)

第4条 学生は、自己の成績について、成績の通知を受けてから1ヶ月以内に限り所定の方式に従い、教員に対して説明を求めることができる。

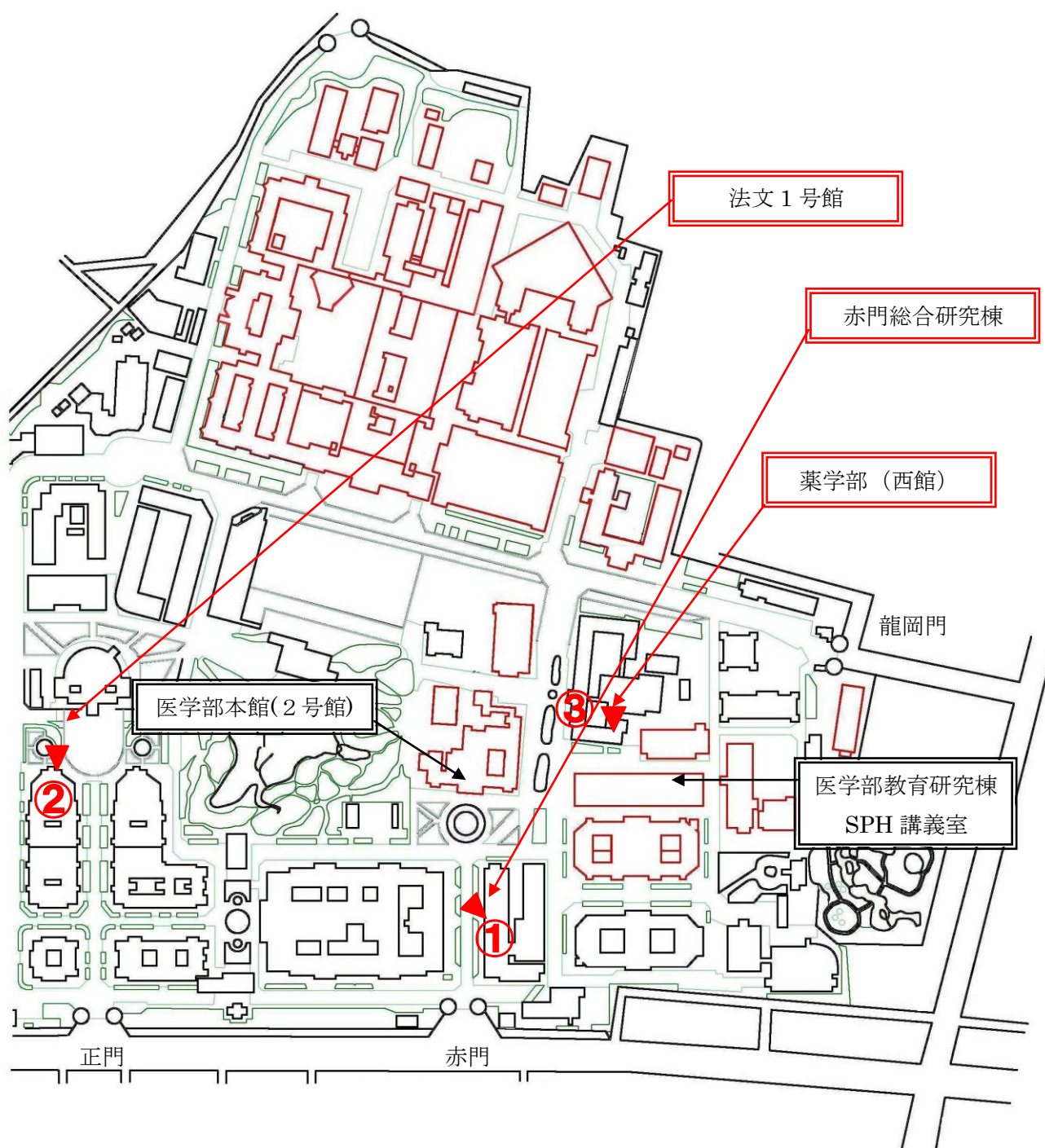
(筆記試験の実施)

第5条 筆記試験実施の細目は、別に定める。

以上

7. 公共政策大学院との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	学期	曜日	時限	開講場所
P. 48	5113140	社会保障政策 (永瀬)	2	夏	木	2	経済学部赤門総合研究棟 地下1階 第8教室 ①
P. 49	5121090	社会保障法政策 (岩村・嶋崎)	2	冬	金	6	法文1号館4階 B5 演習室②
P. 50	5123090	医療政策 (岩本ほか)	2	冬	火	2	薬学部 (西館) 6階607③



時間割コード Course Code	5113140	使用言語 Language	日本語		
授業科目名	社会保障政策				
Course Title	Social Security Policy				
学期 Semester	夏(Summer)	曜日・時限 Day/Period	木(Thu)1 [08:40-10:20]	単位数 Credits	2
担当教員	永瀬 伸子				
Faculties	NAGASE Nobuko				
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	本講義の目的は、日本の社会保障政策を批判的に検討することである。失業、年金、医療、介護、子育て等をめぐる政策メニューは、各国で一見類似に見えるが、特徴には大きい差がある。当該社会の歴史の反映でもあるが、時代とともに社会的保護の課題も異なり、変化が求められる。本講義は、年金制度、子育て期の社会保障、雇用ルールに順に扱う。うち特に年金と子育て期の社会保障に重点を置く。制度の概観、データ源、諸外国との比較など、個別の制度を検討するとともに、人口構造変化を踏まえて、社会保障政策の今後の選択肢を受講者とともに考える。				
授業のキーワード Keywords	社会保障,年金制度,雇用ルール,疑似市場,child care, engendering welfare state				
授業計画 Schedule	(1) 年金制度 年金制度(海外との比較)／年金給付の分布／女性と年金／財政状況／実証研究 (2) 子育て期の社会保障 子育て期に対する社会保障／施設ケア／育児休業制度／税制／児童手当／少子化／疑似市場の問題／海外との比較、実証研究 (3) 雇用ルール 失業保険／解雇法制／日本的雇用慣行と非正規雇用／実証研究／海外との比較				
授業の方法 Teaching Methods	初回は授業スケジュールと意図と課題について説明し、導入の講義をします。2回目以降は、各回について配布論文を読んできてもらうとともに、課題について、報告者2名に7分ずつ報告してもらいます。全体で15分ほど討論を行い、報告者による問題整理をしてもらいます。その上で教員が次回につなげる講義をします。レポート提出が課されます。				
成績評価方法 Method of Evaluation	レポート(40%)、発表(20%)、議論への参加(30%)、出席カードへのコメント(10%)				
教科書 Required Textbook	各回に資料や論文を配付します。英語論文も一部含まれます。				
参考書 Reference Books	棕野美智子・田中耕太郎「はじめての社会保障」最新版 社会保障制度は度々かわりますが、アップデートされていますので参考にしてください。 堀勝洋「社会保障読本 第3版」2004年 入門書として参考にしてください 「先進諸国の社会保障」1から7 東京大学出版会 2000年 やや古いですが各国の制度が概観できます				
履修上の注意 Notes on Taking the Course	出席者はテキスト、課題を読み込み、報告、議論、整理の準備をしてください。またレポートが課されます。				

時間割コード Course Code	5121090	使用言語 Language	日本語		
授業科目名	社会保障法政策				
Course Title	Social Security Law Policy				
学期 Semester	冬(Winter)	曜日・時限 Day/Period	金(Fri)6 [18:30-20:10]	単位数 Credits	2
担当教員	岩村 正彦 / 島崎 謙治				
Faculties	IWAMURA Masahiko / SHIMAZAKI Kenji				
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	現代の国家においては、社会保障の法政策は、高齢化・少子化の進展、経済成長の低迷、経済活動の国際化など、社会保障制度をめぐる経済・社会環境の大きな変化のゆえに、非常にダイナミックな動きを見せている。しかも、社会保障制度は、国民の生活に直結し、かつ国の経済活動にも影響を与えるために、現代行政の中でも大きな位置を占めるに至っている。 この授業は、現代行政において重要性を増しつつある社会保障の法政策について、実際に国の政策立案を担当した、あるいは担当している行政実務家を授業協力者として迎えて行う。授業は、総論と、それをもとにした各論という組立で検討を行う。総論においては、社会保障と経済、社会保障と人口問題、社会保障の国際比較などを検討する。各論においては、主として、医療、年金、社会福祉サービスの 3 つの分野を取り上げ、それぞれの分野において、各分野における最近の法政策の論点をケーススタディーの形で考察する。				
授業のキーワード Keywords	社会保障法,社会保険,高齢化,医療制度,年金制度,介護保険制度				
授業計画 Schedule	1. 少子高齢化・経済成長と社会保障(人口構造・経済構造と社会保障) 2. 社会保障・法・政策(社会保障と法・制度・政策の意味) 3. 日本の社会保障制度の沿革(日本の社会保障の歴史と現状) 4. 日本の社会保障の体系と特質(社会保障の国際比較、社会保険方式の意義) 5. 医療保険制度 1(医療保険制度の概説と政策課題) 6. 医療保険制度 2(医療保険制度体系論) 7. 医療供給制度 1(医療供給制度の基本問題と政策課題) 8. 医療供給制度 2(医療供給制度の政策手法。診療報酬制度等) 9. 介護保険制度(介護保険制度の概説と政策課題) 10. 生活保護および福祉制度(生活保護および福祉制度の概説と政策課題) 11. 年金制度 1(公的年金制度の概説と政策課題) 12. 年金制度 2(前回の補足および企業年金制度の概説と政策課題) 13. 社会手当(児童手当・児童扶養手当の概説と政策課題) 14. 社会保障と税制(社会保障・税の一体改革等) 15. 総括(全体のまとめ)				
授業の方法 Teaching Methods	講義方式による。				
成績評価方法 Method of Evaluation	レポートによる。				
教科書 Required Textbook	島崎謙治『日本の医療－制度と政策』(東京大学出版会, 2011 年)。椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障(第 9 版)』(有斐閣, 2012 年)。				
参考書 Reference Books	岩村正彦『社会保障法 I 』(弘文堂, 2001 年)、西村健一郎・岩村正彦・菊池馨実編『社会保障法 Cases and Materials 』(有斐閣, 2005 年)、堀勝洋『年金保険法: 基本理論と解釈・判例(第 2 版)』(法律文化社, 2011 年)。				
履修上の注意 Notes on Taking the Course					

時間割コード Course Code	5123090	使用言語 Language	日本語		
授業科目名	医療政策				
Course Title	Health Policy				
学期 Semester	冬(Winter)	曜日・時限 Day/Period	火(Tue)2 [10:30-12:10]	単位数 Credits	2
担当教員	岩本 康志 / 辻 哲夫 / 埴岡 健一 / 井伊 雅子				
Faculties	IWAMOTO Yasushi / TSUJI Tetsuo / HANIOKA Kenichi / II Masako				
授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview	医療の進展により、われわれは健康寿命の伸長という恩恵を受けている。一方で、医療が高度化するなかで、多くの政策課題が生まれている。効率的で良質の医療サービスが提供されるために何をなすべきか。この授業では、医療政策をめぐる現代的課題を理論的・実践的に講義していく。				
授業のキーワード Keywords	医療,医療経済学,医療政策				
授業計画 Schedule	以下のような話題をとりあげてを予定している。 医療制度とこれからの課題、 市民主体の医療、 地域主導の医療、 地域医療と地方財政、 医療の質と情報、 医療・保健統計、 アジアの医療健康の経済価値、 保険の基礎理論、 医療保険のモラル・ハザード医師誘発需要、 医療保険の逆選択、 少子・高齢化と医療・介護保険財政				
授業の方法 Teaching Methods	講義形式による				
成績評価方法 Method of Evaluation	定期試験による				
教科書 Required Textbook	橋本英樹・泉田信行編『医療経済学講義』, 東京大学出版会 東京大学医療人材育成講座編『「医療政策」入門』, 医学書院				
参考書 Reference Books					
履修上の注意 Notes on Taking the Course					